

文献的考察を加え報告する。

### 11. 肺性肥大性骨関節症を呈した肺癌の1例

藤枝市立総合病院呼吸器科

仲田千穂, 穂積宏尚, 貝田勇介  
田村亨治

同 内分泌科

加藤夏野, 八木十詩子, 坂本益雄  
浜松医科大学第2内科 千田金吾

43歳男性。平成16年8月、両下腿浮腫とばち状指に気付いた。10月近医を受診し、GH高値のため、当院内分泌科を紹介された。胸部画像にて左上葉腫瘍を認め、肺癌と肺性肥大性骨関節症が疑われた。75g OGTTにてGH抑制が不十分で、TRH、LHRH負荷試験にてGHの奇異反応がみられた。外科的生検にて肺癌と診断され、左上葉切除術をうけた。術後両下腿の浮腫とばち状指は軽快した。GH免疫染色は陰性であった。

### 12. 肺淡明細胞腫 (Sugar tumor) の1切除例

静岡県立静岡がんセンター呼吸器外科

平見有二, 中川加寿夫, 川原洋一郎  
大出泰久, 奥村武弘, 近藤晴彦  
同 画像診断科 遠藤正浩  
同 病理診断科

伊藤以知郎, 亀谷 徹

40歳、女性。風邪症状で近医を受診した際、胸部レントゲン写真で異常影を指摘されて当院紹介受診。右肺下葉S<sup>9</sup>に大きさ35×28mmの均一に造影される境界明瞭な腫瘍を認め、PETでは明らかなFDGの集積を認めなかった。気管支鏡下細胞診でclass IIとの診断であった。確定診断及び治療をかねて左肺下葉部分切除術を施行した。最終病理診断はClear cell tumorであった。比較的稀な肺淡明細胞腫の1切除例を経験したので文献的考察を加えて報告する。

### 13. 喘鳴を主訴とした原発性気管・気管支アミロイドーシスの1例

名古屋掖済会病院呼吸器科

平沢 徹, 吉田健也, 竹山佳宏  
田村真理子, 中村俊信, 島浩一郎  
山本雅史

症例は50歳男性。上気道炎症状後に呼吸困難、喘鳴を主訴に当院を受診

した。吸気呼吸時ともに喘鳴あり、頸部にて狭窄音を聴取し気道狭窄が疑われた。胸部CTにて気管・気管支に突出する腫瘍を認めた。気管支鏡検査では、気管内腔に突出する腫瘍により、狭窄が著明であった。腫瘍の生検の結果、AL型アミロイドーシスと診断した。また、各種検査の結果、原発性気管・気管支アミロイドーシスと診断した。

### 14. 脳転移を認めた desmoplastic malignant mesothelioma の1例

藤田保健衛生大学呼吸器内科・アレルギー科

宮地ひろみ, 米田由希子, 磯谷澄都  
戸谷嘉孝, 齋藤雄二, 岡澤光芝  
榊原博樹

【症例】76歳、男性。【主訴】胸痛。【現病歴】H14年9月に右胸水、胸膜肥厚にて入院。精査するも悪性所見無く、胸水の排液のみ施行し退院。外来で経過観察されていたがH15年4月頃より胸痛出現したため6月16日当科入院となる。【経過】胸膜生検にて desmoplastic malignant mesothelioma と診断。全身検索にて頭部CT上転移を認めγ-knife 施行。対照療法にて経過を見ていたが、失見当識症状出現し今回入院第27病日に呼吸停止を認め永眠された。【考察】脳転移を認める malignant mesothelioma は比較的稀であり、文献的考察を加え報告する。

### 15. 肺原発多形癌の1切除例

名古屋大学医学部呼吸器外科

宇佐美範恭, 福井高幸, 伊藤志門  
佐藤尚他, 内山美佳, 谷口哲郎  
吉岡 洋, 横井香平

患者は64歳男性。検診の胸部写真で右上肺野に4cm大の腫瘍影を指摘され、擦過細胞診にて腺癌と診断された。CT上胸壁浸潤が疑われ(cT3N0M0)、また前縦隔に腫瘍性病変も認められたため、胸骨正中切開にて、縦隔腫瘍切除後、右肺上葉切除+縦隔リンパ節郭清を施行した。病理結果は胸腺腫とpT2N0M0の多形癌であった。多形癌は現在のWHO分類で新たに提唱された比較的新しい疾患概念である。若干の文献的考察を加えて報告する。

### 16. GGO病変を伴う多発肺癌切除例の検討

聖隷三方原病院呼吸器センター外科

島 完, 山田 健, 中島義明  
棚橋雅幸, 吉富裕久, 丹羽 宏

GGO病変は多発することが認識されており、治療方針を決定する上で重要な問題である。当科で経験した多発肺癌のうち、GGO病変を伴う症例を検討した。1986年から2004年に切除した肺癌症例は1075例で、多発肺癌はうち49例(0.5%)であった。異時性14例、同時性35例で、異時性ではGGO病変を2例に、同時性では16例に認めた。GGO病変18例のうち4例に3多発癌を認めた。野口分類A、B、C同士の多発は7例(39%)であった。背景因子、術式、予後に検討を加えたので報告する。

### 17. 若年女性の印環細胞型肺癌の1例

信州大学呼吸器・感染症内科

神田慎太郎, 角田美佳子, 田名部毅  
津島健司, 漆畑一寿, 花岡正幸  
小泉知展, 藤本圭作, 久保恵嗣  
同 呼吸器外科

濱中一敏, 吉田和夫  
同 臨床検査部

山崎善隆, 本田孝行

症例は35歳女性。胸部異常影を指摘され当科受診。胸部CT検査では右S<sup>8</sup>領域の腫瘍影と同側肺門リンパ節腫脹を認めた。経気管支擦過細胞診から腺癌、cT2N1M0 stage IIBと診断され手術を施行された。病理組織像は腫瘍の約80%を印環細胞が占める腺癌であった。過去の報告から印環細胞型肺癌は若年発症の傾向があり、予後不良の亜型と考えられ嚴重なフォローアップが必要と考えられた。

### 18. 80歳以上高齢者肺癌手術症例の検討

藤田保健衛生大学病院胸部外科

長谷川祥子, 須田 隆, 根木浩路  
服部良信

全手術症例の3.4%、12例13手術を対象とした。男性8例、女性4例、平均82.4歳であった。肺葉切除術8例、肺部分切除術3例、試験開胸術2例を施行。胸腔鏡手術は5例に行った。術